

マガモ (学名: *Anas platyrhynchos*)

[カモ目 カモ科]



▲ 滝湖のマガモ

只見町では、10月中旬～3月下旬にかけて冬鳥であるカモ類が多く渡来します。渡来したカモ類は主に只見湖と滝湖、そして少数が伊南川で越冬します。二つの湖は川をせき止めて造られた人造湖で、ダムができたことでカモ類が生息しやすい止水環境が生じたため、カモ類が集まるようになりました。その中に緑色の頭をしたマガモの群れを見ることができます。マガモのオスは狩猟者からは「アオクビ」と呼ばれることもあり、緑色の頭に白い首輪、褐色の胸、黄色のくちばしが特徴です。メスは、全身が褐色で黒褐色の模様があり、くちばしは橙色に黒色斑といった目立たない色をしています。冬にみるマガモのオスが色鮮やかなのは、つがい形成期であるためで、メスにつがいの相手として選んでもらうためのアピールです。そのため、湖に行くと求愛行動をしている姿を見ることができるかもしれません。越冬地でつがい相手を見つけて春になると、連れ立って繁殖地である北に戻っていきます。繁殖期を過ぎたオスはメスと同じような褐色の姿に変わります。これをエクリップスといいます。また、マガモの中には北に戻らず夏もとどまる個体もいるそうです。

詳しくは、
只見町ブナセンター
までお問い合わせ
ください

企画展示

「守りたい！ 只見の野生動植物

— 只見町の野生動植物を保護する条例 —

期 間：6月25日(月)まで

場 所：ただみ・ブナと川のミュージアム 2階ギャラリー